2022年度第4回日本学連幹事会議事録

【日程】2023年3月23日(木) 9:15 ~ 12:15

【場所】静岡県熱海市 GeNSEn Lab 会議室
オンライン参加も可とし、Zoomを併用した。

【議事録作成者】鈴木璃土(筑波大学,責任者)、鎌倉京平(筑波大学)、祖父江有祐(筑波大学)

【目次】

1. JOAへの女性理事派遣について 3
2.世界学生オリエンテーリング選手権派遣事業 補助費増額の要望 4
3. 春インカレの宿泊斡旋の今後について 7
4. 部局報告 14

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
木村 佳司	理事	山口大学卒
谷野 文史	理事	筑波大学卒
遠藤 匠真	インカレSPU	大阪大学卒
浴本 悠貴	幹事長	神戸大学
坂巻 朱里	副幹事長	十文字学園女子大学
松本 萌恵	事務局長	神戸大学
荒木 孝大	事務局員	広島大学
宮川 葵衣	普及部員	東京理科大学
永山 遼真	事業部長	筑波大学
大石 遥	事業部員	新潟大学
鷲津 加子	渉外部長	東北大学
澤橋 さくら	渉外部員	京都女子大学
鈴木 璃土	広報部長	筑波大学
祖父江 有祐	広報部員	筑波大学
鎌倉 京平	広報部員	筑波大学
衣笠 匠斗	会計監査	東京大学
安田 壱燿	北東学連幹事長	福島大学
市川 竣介	関東学連幹事長	筑波大学
島田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
柴﨑 愛有	北信越学連幹事長	新潟大学
市川 竣介	次期幹事長	筑波大学
森 創之介	次期事業部長	横浜国立大学
坂本 拓登	次期普及部員	北海道大学

舘 直輝	次期東海学連幹事長	名古屋大学
千葉 望央	次期北東学連幹事長	宮城学院女子大学
八房 穣	次期事業部員	千葉大学
遠藤 陽太	次期会計	東京大学
西澤 汰知	次期広報部員	東北大学

(注)議論の本筋に関係のない会話は適宜削除している。

1. JOAへの女性理事派遣について

浴本：JOAは公式の中央競技団体であり、女性理事を40%にするようスポーツ庁からガバナンスコードが呈示されている。しかし、現状は4/20(20%)となっている。そこで、JOAより学連から追加で１人女性理事を出してほしいとの通達があった。

学連輩出のJOA理事は2名（学連理事、学連幹事長）
ここに追加で学連から女性理事を1名出してほしいとのこと。
学連幹事長が女性の場合は、女性幹事長に加え、男性幹事を１人出すということでJOAと意見が一致した（男子学生、女子学生の意見を拾うため）。

本日の会議では来年度の女性理事を誰にするかを決定したい。その上で何を重視して指名するかである。やりたい人がやるのがいいと思うが、特にやりたいという人がいなければ資料のような論点で考えるのがよいだろう。

坂巻：学連との接続を考えると、現在学連の組織内にいる人から出したほうがいいのではないかと思う。

木村：JOAは公式の中央競技団体である。JOAの中で日本学連は最大組織である。昨今スポーツ団体の不祥事が起きているため、透明性を高めるよう動いている。
国内のスポーツ界には女性の方が競技人口が多いのに理事には男性ばかりといった競技もあり、スポーツ庁はこういった現状を是正するよう強く要請している。そのため、大里さんからこのような要望があった。
総会で決定することになってはいるが、実質的に理事会が動かしている状態。理事会に人を派遣できるとJOA内での学連の立場が向上する。

衣笠：一番重要なのは、学連とJOA両方に関われる人を用意するべきと考える。

市川：学連のことをわかっている人というのが必要条件であると考えるため、日学幹事会初年度の人が務めるのは厳しいのではと思う。卒業する現4年生が適任なのではと考える。

松本：現在の学連の組織内にいる人のほうが、今議論されている内容をそのままJOAに持っていけるのでいいのではないかと考えている。

鷲津：2年やるとなると、現2年生のみになってしまうのでは。

木村：1年間のみでも問題ない。

山川：今度の3月30日で、今後のインカレスプリントを全日本スプリントと共催する場合、そこの交渉をしなければならなくなると考える。

木村：実際にJOAで行うのは組織運営についてである。そこで意見を言ったり投票するのが仕事であり、その人が手を動かすということはほとんどない。

浴本：新幹事長の市川が依頼して、その上で決定としてよいのではないか。
期限は3月中である。この議題はここまでとする。

2.世界学生オリエンテーリング選手権派遣事業 補助費増額の要望

松本：今年のユニバーに参加した選手から、補助金増額の要望があった。現在は30万円の補助金を学連からいただいており、選手とオフィシャルで分配している。補助金の半分はオフィシャルに充てており、残りを選手12名で分配している。

日学にお願いしたいというのもあるが、ユニバーについてもスポーツ振興基金から補助をいただくという方法も検討したい。

坂巻：代表選手については、壮行会を開催している例が見られる。その売り上げが内訳に含まれていない。

松本：壮行会は任意である。複数名で行うと一人当たりのお金は減る。個人によって事情はかなり違う。経費として含めるものではない。

遠藤：現在の30万円という金額は何を根拠に決定されたものか。

木村：世界学生選手権への派遣は、かつてJOAがあまり機能していなかった頃は学連から派遣していた。当時はインカレの参加者が多く会計が潤っていたこともあり、今より高額の50万円が支給されていた。ユニバー関係の広報不足やインカレ参加者減少による会計状況の悪化により年々減額がされ、その結果現在の30万円という額に落ち着いている。

浴本：現状の会計的にはどうか。

衣笠：基本的に赤字なので、増やせるかどうか分からない。しかし、全体の支出に対して額は小さいため、それを出すと大きく影響があるというわけではない。が、余裕があるというわけでもない。

浴本：日本学連の会計状況は赤字ではあるが、数百万円単位でのお金の動きがメインであるため、この増額が大きな影響を与えるものではない。

谷野：今年度はコロナ対応の緊急予算として追加で30万円を確保したため実質的には60万円となっている。

他のスポーツを見ていると、マイナースポーツは全額出せているわけではない。しかし、2年合計で30万円、12名は補助金が少ないと考える。

昨年補助金の申請を色々調べてみたが、我々日本学連は法人格のない任意団体であり、補助金の申請・受理は難しいのではないかと思う。JOAに申請を肩代わりしてもらえばいいかと言えばそうでもなく、現在JWOCやWOCのためとして頑張って補助金を獲得している。ここに新たにユニバーについても申請すると他の補助金が減る可能性はある。

木村：JOAは補助金を分配しているが、現在は学連が派遣しているため、そのままでは補助金は回ってこない。スポーツ振興基金を獲得するなら、派遣主体がどこであるかを考えなければならない。現在は学連である。

浴本：JOAには相談しようと考えている。現実的には厳しい。
人数を12人から減らすということは考えたくないが、その人数で分配すると非常に少ないため、増額の方針で考えていきたい。
増額となると、幹事会メンバーの合意が必要であるが、どうか。

山川：その選手を抱えることでメリットがあるかを考える必要がある。12名全員が将来貢献してくれるわけではない。WOCよりは格を下げてよい。一人5万円位を水準にという昔のようにするのがよいのではないか。かつては50万円であった。

谷野：ユニバーから帰ってきた選手が貢献してくれるということを期待して派遣している。増額するなら、学連合宿のコーチを務める、報告書をまとめるなど貢献がセットになるとよい。

衣笠：一人5万でも、オフィシャルの方を含めると75万程度になるのではないか。

森：国際大会に出るにあたって、選手は基本自費で出すものだという風潮がある中で増額していただける方針はありがたいが、選手側からも、いくら増額してほしいのかという具体的な数値があれば、もう少し学連側としても動きやすいのではないかと考えた。

松本：全員と話したわけではないので明確にいくらかは言えないが、大会参加費とFISU登録費は全員一律で必ずかかるものであるため、この部分だけでも補助があると大きい。7~8割でも。

浴本：大会参加費は毎回同じくらいなのか。

松本：わからない。

木村：FISUの1レースは宿泊込70€と決まっていたはず。一般的な感覚であれば、成田から成田までをすべて出すべきだが、それができるのは大きい団体のみ。

衣笠：これまでの話だと、会計的な余裕があるかと選手がいくら負担しているか、他の団体がどのくらい出しているのかという観点がある。
今日のゴールを把握したい。来年の2月までに結論が出ていれば動きやすいと考える。

浴本：選手側からいくらほしいかはヒアリングを行う。他のマイナースポーツではどうなのかはまた調べる必要がある。会計からいくら出せるかについては今年度の決算をもとに判断できるだろう。

今日のゴールは増やすかどうかという方針でよいのではないか。

今後やることとして、2つの観点がある。選手としてどのくらいの額増額してほしいか、日本学連の会計としてどのくらいだせるのか。

谷野：他のマイナースポーツ団体がどのくらい出しているのかについては比較が難しい。UNIVASの方に聞いてみる。何のためにユニバー派遣を行うのかを整理することが必要。

浴本：日本学連としてユニバー派遣を行う目的についても明確化していきたい。ゴールとしては、2024年度の予算案に乗せるという意味で、年内に決定したい。

澤橋：増額するという意見を出した人に疑問。先に議論の道筋を決めてからのほうが良いのではないか。

浴本：会計は何とかして出す、増額費用は第1回幹事会に選手をオブザーバーとして呼び、そこで金額を具体化できる。

松本：補足として、何もしていないという風潮であるが、ユニバー選手はWOCよりも充実した報告書をA4 6枚などで書いており、日本学連HPにも掲載されている。まずはその宣伝からはじめてはどうか。

3. 春インカレの宿泊斡旋の今後について

浴本：ゴールから話す。今回の話は日本旅行が大きく関わっているため、日本旅行の方と話すことが必要である。そのため、今回決定することはできない。今回は初めて幹事会に参加する人向けに説明することがメインになる。

今までの流れを説明する。詳細は資料参照。

山川：他にも面白い大会が出てきて、インカレの価値が相対的に下がったという意見も聞かれるようになった。150人下がったのは会計に跳ね返ってくるしショックだったけど、やってみて確信持てるところがあって、全日本とインカレの違い感じたでしょ？それが値段に直な部分。開会式やってミドル・リレーやって、応援して、オフィシャルレースして最後に写真撮って、全日本とインカレでは全く魅力が違って、インカレにしかない魅力がある。その部分がちょうど日本旅行にお世話になっている部分。秋は何とかなっているけど春は何とかならんのかって言ってやめちゃうと、その部分がなくなってしまう。

谷野：思いの部分山川さんにおっしゃっていただいたと思っています。自分なりに半年ぐらい考えて、ポイントは2つある。物理的な話として、開会式や会場に700~800くらいの車が押し寄せる。そのとき駐車場のキャパがないという。そうなると輸送とかインカレの実行委員会の負担があって、それを日本旅行にお願いすることでバスという輸送に特化するものを用意してもらえていた。もう一つが、インカレの空気感をつくるとなると各大学が同じ宿に泊まってミーティングしてという、大学ごとに宿が取れるかという部分がある。今日本旅行に行程を組み立ててもらっているおかげで、8~9時に会場にたどり着けるけど、僻地だと宿泊地はなれてスタートに間に合わないという事例が出てきかねない。フェアに一回考えてみたいという思いはある。昔より宿が取りやすく、車もみんな持っているし、運営者の負荷は生じるけど、そういうところをクリアすると駐車場問題とか開会式とかやれないこともないと思っている。ただ、日本旅行にお金払ってやりやすく簡単にやってもらっているので、それを失うのはでかいと思う。

山川：宿が取りやすいという問題はネットでとれるから簡単。ただ、数がそろうか、同じ値段でとれるか。日本旅行の3万2千円のうち、一泊は1万2千円。原価でも12,800円とか。旅行会社によって安く取ってるからとれる。3月は学生の旅行シーズンなので全然原価が違う。10月はスポーツシーズンだけど一般人はあんまり旅しないので大丈夫だけど、3月は高くなっている。本当は12,000円で取れたりしない。自分のクラブの分の人数をそろえようとするとさらに難しい。遠いところでビジネスホテルがいっぱいあって、自分たちで移

動すれば宿はとれる。しかし、片道2時間くらいの移動が伴ったりする。その苦労を参加者も運営者も担わなければならない。バス輸送だけ日本旅行に頼むという手もあるけど、それは日本旅行の利益が全然違うので、それは日本旅行に対して失礼だと思っている。一昨日会って、ぶっちゃけレベルで話をしてきました。本来なら彼らがメインマーケットとしている修学旅行と同じような形になるが、オリエンテーリングの場合は打合せから7月ごろに打合せして決めておいて、直前に仕様が変更する、仕様書を書いていない、修学旅行は仕様書通りにすればいいが、オリエンテーリングは仕様変更だらけで大変。日本旅行だけでなく資材もそうだけど、最初の相談から意見がどんどん変わっていくのに対応していく必要がある。前にオリエンティアが卒業した旅行会社で近畿や阪急は一回やってたけど撤退した。京王観光も見積もりをだしてきたけど、色々話すと逃げて行った。結局日本旅行にしか頼めない。もし、日本旅行を切った場合に、次にやってくれるかどうか、今度のインカレ実行委員会内も僕から見ればおこちゃまみたいなもので、周りが見れておらず内で発言しているという感じがする。今後テレインがいいけど日本旅行のアテンドを切っていてできなかった、となっていいのか。あとは秋と春で違うのは、秋はみんなレンタカーで行くが、春は宿泊数が多いので公共交通機関で行く人が多い。今年は開会式が駅前だったので、公共交通機関推奨ということで、かなりの人が車を出さなかったので収まったという部分がある。あと、北大だけ特例で認めるかについて。それはソリューションの一つだとは思う。日本旅行側の言い分としては、大会の裏アテンドは日本旅行が支えているというのは、みんなが等しく負担しているから成り立っていて、儲けているわけではなく、3月の原価が高いため。今年の値上げはバスによるものが多い。ガソリン代が高くなっている。ある程度のラインを切って不泊申請を認めるのはいいけど、等しい負担感を崩さないようにしないといけない。ましてや、バスだけお願いするのは失礼極まりないのでないと思っている。
加えて仕様書の話が出たが、7月までに出さないと難しい。それ以降の変更はできない。

一年生のみ安くするという案もある。宿泊費を下げるのではなく、参加費を下げる。
他のスポーツと違う点として、他のスポーツは全員参加ではない。陸上だと関東インカレに勝って全日本インカレに出る。応援したい人だけ応援に行く。選手に関しては文句なんか受け付ける場所すらない。指定された宿に泊まるだけ。もちろん、スポンサーのついているスポーツ以外は自分たちでお金のやりくりをしているから、安くはないだろうけど指定の宿に泊まらなければいけないけど、ぼられているという感じはない。

政府が主催する国体とかねんりんピックは、お金がじゃぶじゃぶ使われている。昔はオリエンテーリングもそうだった。一つの大会に1000万円くらい予算がのっかって、そこに天

下りの人から指定された指南役がいて、じゃぶじゃぶお金を使って竜宮城のような大会をやってたという時代。それじゃあJOAがもたないじゃんと民営化したのが今の姿。

なぜ学連だけみんなで自由に話し合えるか。他のスポーツはOBの理事が決めているのに、なぜ学生が決めているのか。オリエンテーリングはお上から降りてきたスポーツだった。総務省が体力作りで始めようってパーマネントコースとかにお金を投下して、そこに読売新聞社着けて週刊誌にパーマネントコースが載って、一万人の大会があったりして。そういう状態から始まって、読売新聞が主導して、なにやるにしても美味しかった。読売新聞がお金つぎこんで、学生も面白いから何人かついてきた。読売新聞の推進役が学生の何人かを子飼いにしてインカレやれよってお金出したのがインカレの始まり。そのときの大学1,2年生が運営に呼ばれた。新日本OLCという、取って付けた名前で運営した。また、3,4年生に読売の推進役が学連作れってけしかけて、いきなり全国組織は大変だから連絡協議会をつくろうって言って、日本学生オリエンテーリングクラブ連絡協議会を立ち上げたのが僕が二浪目のとき。第3回のインカレのときに、読売によるものをやるのがいいのかっていう話になった。そのとき当時の学生が反発して自分たちの学連をつくろうとしたのが起源。つくろうとしたけど話が全然まとまらないというのが当時。当時人徳だけがあったので、山川助けてとか相談されて、立場が逆転して、第3回のインカレの裏方から僕がやりだして、第4回から。その頃のOBは競技運営だけするから、学生の意見をまとめてっていうのは現役の学生がやれって投げた。それを受け入れるのが僕しかいなかった。第4回のインカレ、今の開会式とかテクニカルミーティングとかの盛り上がりは、当時現役の学生が自腹でユニバーに行って向こうのものを吸収して持って帰ってきた。それでテクミや開会式やろうって現役の学生が言って、それを僕が実現させたのが原点。第4,5回は50ccバイクで僕が民宿回って交渉してやった。第6,7回は、OB扱いだったけど旅館組合との交渉も一手にやった、それで、もうこれできないよねっていうので、近畿や阪急に投げたけど無理で、日本旅行の小林さんにやってもらうようにした。小林さんも、後輩オリエンティアを育てたりしてたけど、亡くなってしまったので、今はさらに属人的になっている。

つもり重なった思いがこの議論のなかに凝縮されているということが言いたかった。

浴本：議論の期限は6月である。

山川：発表していないが、今年のインカレは準備が早く進んでいる。
地元に宿が少ないため、議論するうえで早めに場所を発表しろとは言ってある。

浴本：日本旅行と話をする必要があるため、今日は宿泊斡旋をするかどうかの方針決めをするのではなく、意見認識合わせをするのみである。

森：今回春インカレにいってみて思ったこととして、宿の差が大きかったように思う。ご飯などは目をつぶったとしても、朝の出る時間が違うのは、競技にも影響が出てしまうと考える。大会側が斡旋している以上、2日間ベストを尽くせる環境だったかどうかが大学によって大きな差が出てしまうのは不満が残る。KOLCとしては全体で同じ宿を取れたのはありがたいが、そういう面で差が生まれてしまうのはよくない。参加者にそのような差が生まれるのであれば、宿泊斡旋は任意という形にするのがいいのではないか。

浴本：インカレ運営経験のある方に聞きたいが宿泊斡旋を仮にしないとなった場合は、宿泊については参加者の自己責任で、運営は一切関知しないということですよね？

木村：基本的には関知しない。

山川：開会式を開くのに日本旅行のお世話になっているから、日本旅行を切るとそういう雰囲気がなくなる。

谷野：開会式をするとなると開会式用の駐車場と会場を抑える必要がある。これらを確保したり準備しているのは、日本旅行の場合もあるし、運営がやっている場合もある。今開会式モデイベをセットにして交通を組んでいるので、バスがなくなったら、参加者が減る可能性あり。そこは、強制にするという事もできる。

遠藤：意見が3つある。1つ目、日本旅行が何をやっているのか把握できていない。
2つ目、開会式とバス輸送の話はある程度切り離して考える必要があると考える。
3つ目、各学連の負担額が知りたい。交通手段が違うので把握できていない。

谷野：どれもいい意見だと思う。
自分たちで情報を獲得しにいかないといけないため、部局を跨いで、調べて集めてほしい。

山川：着地点はシンプル、1年生の参加を取り戻すこと。

浴本：今回来てないのは1年生だけではないのでは？

2019年は参加費8500円、宿泊輸送費含めて28000円?

西澤：開会式がない場合、金額はいくらになるのか。

山川：12000円とバス代、会場代（ほぼ考慮する必要はない）が自由になる。
金曜日と土曜日では原価が違うため、9000円程度は少なくとも減少する。

西澤：開会式に行きたいかどうかアンケートを取るべきなのでは。

大石：コロナ以前を知らない人が多い中では決められない。

谷野：場所による。年度別の開催費が参加費に計上される。スポーツのイベントとして、空気間を作り出す意味がある。別にそこに固執する必要はなくて、ほかの1年生が来ないとかの課題と天秤にかけて考える必要がある。正解はない。オリンピックだって開会式が必ず必要な訳ではない。でもあの空気感のためにお金を払っている。自分たちで決めていくことが大切。

木村：インカレの価値についての話。ユニバスの幹部が春インカレの視察にきた。今年度はじめて全33団体のインカレを視察に行ったそうだ。オリエンテーリングは盛り上がりがすごい。OBと学生がアイデアを出し合って、自分たちで工夫して作り上げていることが良い。3人来てくれたが、全員が同じ印象を持っていた。誇っていいことです。

山川：学生の手作り感は、これからも保っていった方がいいよ。

坂本：インカレの運営の裏がよくわかっていないのですが、前の全日本のように、オリエンテーリングクラブと共催という案はないのか。

山川：そのような例はない。インカレが県協会を全面的に頼って開催したという例はある。

木村：学連は全国組織なので、テレインを多く持っていない。テレインを持っている地方団体に協力を仰ぐことは多くある。

遠藤：来なかった学生が何を理由に来なかったかをヒアリングすべきと思う。ミセレの頃から来てなかったということも考えられる。

大石：宿の決め方を知りたい。一泊12000円のような宿を学生が自分で取ることはない。

山川：ビジネスホテルの場合はかなり数が増えてしまう。

森：この件について、そもそもどこに意見を言えば分からない。

山川：学生側も仕様をはっきりとさせること、日本旅行側もより情報公開を早くする必要がある。

木村：日本旅行に、宿泊費のうち何円が何に使われているのか、どこの宿が何円なのかなどを聞くことは、企業秘密であるから聞くことは不可能。しかし、ほかの旅行会社から相見積もりを取ることは可能であると思う。

浴本：今後集める情報は、日本旅行の手配内容（小林さん・旧幹事長、日本旅行）、各地区の交通事情（各大学渉外）、秋から春にかけての参加者の減少内訳(学年、時期）（公開情報）、参加費内訳。

坂本：内訳について聞いているのは、運営や日本旅行への不信感からであると思うので、不当な金額でないことがわかればそれでよいのでは。

浴本：春インカレは、秋インカレの分まで黒字を出す収益事業の側面があると遠藤さんに聞いたのですが、それは本当ですか。

谷野：それはないです。昔は春インカレで出た利益を学連に返して、次に生かすみたいなのもあったが、今の参加者数では利益を出すのが厳しい。

山川：その考え方はかつて秋インカレがロングだけだった頃の話。

浴本：他に質問は？

開会式の有無で参加費は変わるのか

どれくらい減るか誰に聞けばいいか？

山川：日本旅行か。一泊なくなったらいくらになりますかという感じで。

柴崎：インカレの決算は学生も見ることができますか？

谷野：インカレの細かい決算は理事会には出ていて、総会には出していない。
ただ、幹事会に絶対に出さなければならないというものではないので、よくないという話をちょうどしていた。少なくとも幹事会には投げるようにする。

浴本：ここからの流れ。資料参照。学生の納得を得られることが一番大事なので、学生の納得を得られる形にしたい。

森：秋インカレから春インカレの参加者減少を各大学渉外に聞くときにその理由もセットで聞く。

4. 部局報告

資料参照。

以上